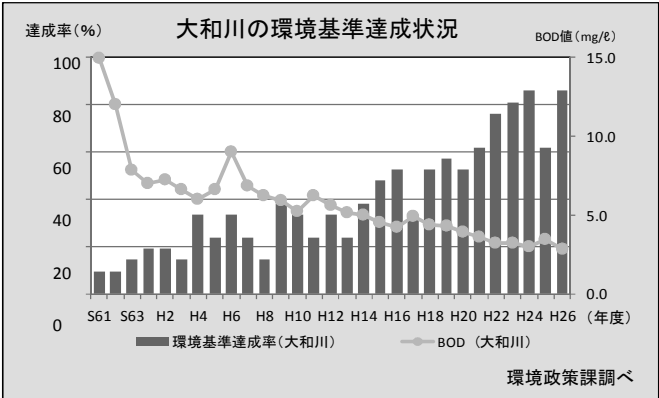


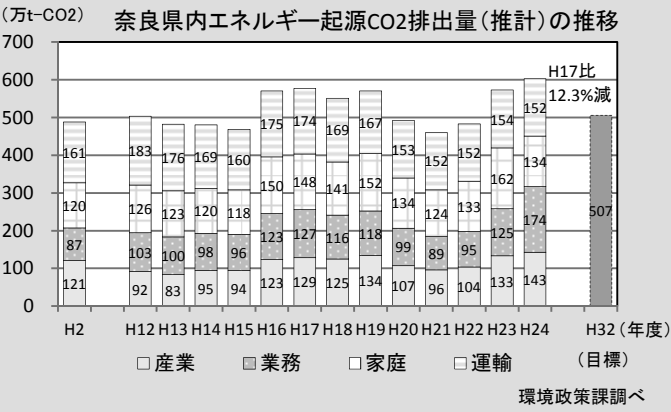
主担当部局(長)名	景観・環境局長 中 幸司
関係部局(長)名	総務部長 野村 政樹、地域振興部長 一松 旬、産業・雇用振興部長 森田 康文、 農林部長 福谷 健夫、県土マネジメント部長 加藤 恒太郎、水道局長 久保田 幸 治、教育長 吉田 育弘

重点課題	Ⅱ 暮らしの向上 9 景観・環境の保全と創造 2 きれいでくらしやすい生活環境の創造	目指す姿	NPO、学校、事業所、自治会、県・市町村等が協働し、環境への配慮に加え、県民が和みを感じ、愛着と誇りを持つことのできる“美しく風格と和みのあるまちづくり”を目指します。
------	--	------	--

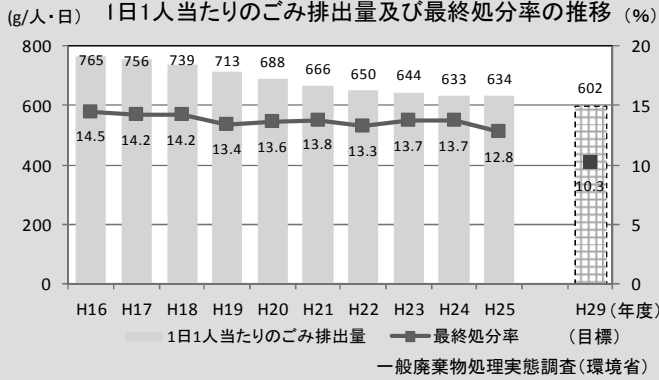
1. 政策課題の進捗状況



目標	清流を保全し、復活させます。 大和川：環境基準(BOD値)を達成させます。 (H24年度環境基準達成率:86%) 吉野川：清流を保全します。
取組	下水道整備及び合併処理浄化槽設置支援などを行いました。
成果	大和川の環境基準達成率は、下水道整備等が進捗したことにより、約86%(H26年度)となり、改善傾向にあります。



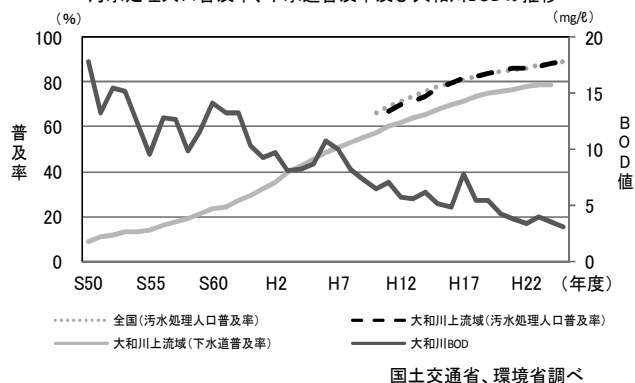
目標	CO2の排出抑制に取り組みます。 (H23年度:546万t-CO2)
取組	省エネ・節電に係る普及・啓発とともに、家庭用太陽光パネル及び蓄電池等の設備設置支援を行いました。
成果	本県におけるエネルギー起源CO2排出量は、東日本大震災以降、増加傾向にあるものの、創エネ・省エネの取り組みが進んでいます。



目標	廃棄物の排出量削減とリサイクルを推進します。 (家庭ごみ排出量を平成29年度までに602g/人・日にします。(H23年度:644g/人・日) その結果、最終処分率を平成29年度までに10.3%にします。(H23年度:13.7%)
取組	環境にやさしい買い物キャンペーン(レジ袋削減)を実施するなど意識醸成に努めました。
成果	県民1人1日当たりのごみ排出量は、約634g(H25年度)となり、目標達成に向け、順調に推移しています。

2. 現状分析

汚水処理人口普及率、下水道普及率及び大和川BODの推移



大和川の水質は、汚水処理人口普及率の上昇とともに改善が見られます。汚水処理人口普及率は、平成25年度末で89.0%(大和川上流流域)で、全国平均88.9%と同程度で推移しています。

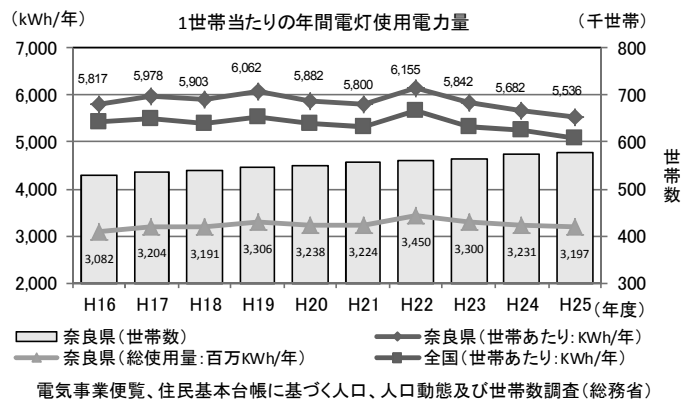
※汚水処理人口普及率

= (下水道人口 + 合併浄化槽人口 + コミュニティ・プラント人口) / 全人口

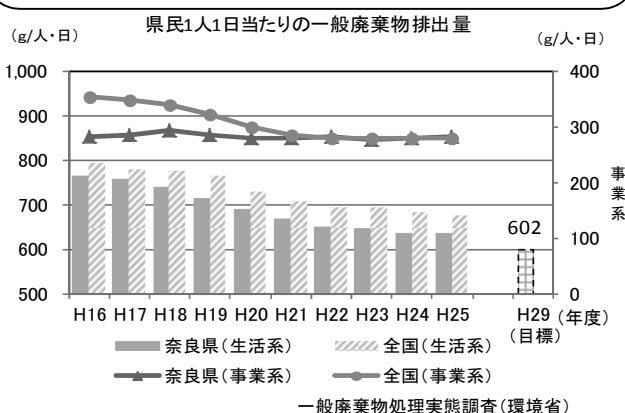
※コミュニティ・プラント：市町村が設置・管理する小規模な汚水処理施設

※BOD：水の汚染を表す指標の一つ。数値が高いほど汚濁度高。

県民1人1日当たりの家庭系ごみの排出量は、過去10年間で減少傾向にあり、その排出量は約634gで、全国平均678gと比較し、約44g少なくなっています。しかし、事業系については、ほぼ横ばいで推移し、平成25年度では、全国平均と同程度です。



平成25年度の県内総電灯使用電力量は、世帯数が増加したものの、節電等の取り組みにより1世帯当たりの電灯使用電力量が減少したことから、前年度より約2.6%削減できました。しかし、1世帯当たりの電灯使用電力量は、全国平均と比較し、約8%多くなっています。



奈良県の持っている強み		内部(内的要因)		奈良県の抱えている弱み		
目的達成のプラス要因	【CO2排出削減・CO2吸収源整備】 1 再生可能エネルギー(太陽光パネル設置基数等)の普及拡大 2 CO2吸収源となる豊富な森林資源の保有 【廃棄物排出抑制、循環的利用の促進】 3 有機野菜等の消費者ニーズ(約8割の人が有機農業、エコファーマーによる農産物を買いたいと回答:H25.10奈良まほろば市アンケート調査) 【生物多様性なら戦略の推進】 4 生物多様性なら戦略を策定 5 「なら生物多様性保全ネットワーク」を設立		【河川の水質保持・水量確保】 6 大和川の支川別に見ると水質改善が進んでない河川が存在 7 汚水処理が進みにくい山間部が多い 【CO2排出削減・CO2吸収源整備】 8 家庭部門におけるCO2排出割合が高い 9 森林整備の担い手不足 【廃棄物排出抑制、循環的利用の促進】 10 事業系一般廃棄物(オフィス・飲食店等から排出されるごみ)の排出量が多い 11 ごみのリサイクル率が低い			
	奈良県への追い風		外部(外的要因)		奈良県への向かい風	
目的達成のマイナス要因	【CO2排出削減・CO2吸収源整備】 a 再生エネルギー法成立に伴う新技術の確立及び新規企業参入の促進 b 再生可能エネルギー固定買取制度の制定・定着 c 原子力発電所事故及びそれに伴う電力不足問題の発生により、節電に対する意識及び自然エネルギーに対する関心の高まり d 国の木材利用ポイント制度導入(間伐、木材利用促進により、森林の適正な整備と機能保全を図る) 【全般】 e ごみ問題、水質汚濁に関心が高い(H26年度県民webアンケートより)		【CO2排出削減】 f 太陽光発電を中心とする再生可能エネルギーの固定買取制度の買取価格引き下げ 【生物多様性なら戦略の推進】 g 「生物多様性」認知度が低い(約6割の人が知らない又は詳しくは知らないと回答:H26年度県民webアンケート)			

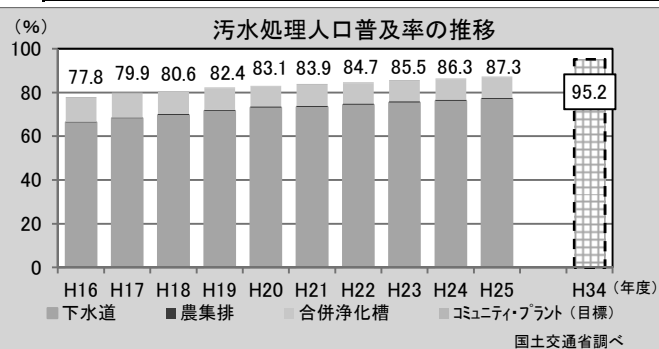
3. 施策課題の進捗状況

戦略1 きれいな生活環境を創造します。

主担当課(長)名 環境政策課長 柳原 章二

戦略目標

- ▶生活環境の改善及び公共用水域の水質保全を目指し、平成34年度までに汚水処理人口普及率を95.2%にします。(H24年度:86.3%)
- ▶平成27年度までに再生可能エネルギー設備容量3.8倍(H22年度:57,481kW 比)を目指します。
- ▶節電により、使用電力量を平成22年度から5%削減した状態を維持することを目指します。
- ▶平成29年度の県民1人1日当たりの生活ごみ排出量を48g削減します。(H22年度:650g/人・日 比)
- ▶平成27年度までに県民の「生物多様性」の認知度を80%にします。(H23年度:45%)



取組	下水道整備及び合併処理浄化槽の整備を促進しました。
成果	下水道整備及び合併処理浄化槽設置促進等により、汚水処理人口普及率は年々増加し、平成25年度末で87.3%となり、前年度より1ポイント上昇しました。目標達成に向け、順調に推移しています。

主な取組指標等	平成24年度	平成25年度	平成26年度	担当課名
河川の水質の保持・水量の確保				
単独処理浄化槽数(基)	76,459	74,822	74,217	環境政策課
※合併処理浄化槽への切替または下水道接続により減らすことが目標				
水辺環境の整備と里川の再生				
河川美化愛護団体支援事業による河川清掃実施団体数(団体)	95	100	101	河川課
道路沿道における草刈りや清掃活動に参加する地域ボランティア団体数(団体)	96	97	98	道路管理課
CO2排出量の削減				
県営水道における太陽光発電及び小水力発電の年間発電能力(万kWh/年)	304	304	304	水道局
家庭用太陽光パネル設置基数(基)	15,566	19,858	21,633	エネルギー政策課
廃棄物の排出抑制・循環的利用の促進				
県と協定を締結した農業者、法人もしくは店舗数	37	37	38	農業水産振興課
廃棄物の適正処理の推進、不法投棄・不適正処理の撲滅				
不法投棄等に係る通報件数(件)	106	105	99	廃棄物対策課
生物多様性なら戦略の推進				
「なら生物多様性保全ネットワーク」の参加団体数(団体)	—	72	79	景観・自然環境課

これまでの成果

- ・奈良県内の河川水質は改善傾向にあります。(全58地点BOD平均:H17年度2.5mg/ℓ→H26年度1.6mg/ℓ(速報値))
- ・節電効果や再生可能エネルギーの普及により、平成25年度の電灯使用電力量は平成22年度比で約7.3%削減しました。
- ・県営水道では、太陽光発電(御所浄水場)、小水力発電(広域水道センター、桜井浄水場)を導入しました。平成26年度の総発電量は約273万kWhで、約1,262tの二酸化炭素を削減しました。
- ・森林環境税を活用した施業放置林の強度間伐等について、平成26年度までに7,510haを実施しました。
- ・生物多様性保全について全県的な取り組みを促進するため、「なら生物多様性保全ネットワーク」を設立(H26年3月)し、平成27年3月現在で79団体が参画しました。

4. 平成28年度に向けた課題の明確化

＜政策課題の進捗状況＞ ・大和川の環境基準達成率は、下水道整備等が進捗したことにより、約86%(H26年度)となり、改善傾向にあります。 ・本県におけるエネルギー起源CO2排出量は、東日本大震災以降、増加傾向にあるものの、創エネ・省エネの取り組みが進んでいます。 ・県民1人1日当たりのごみ排出量は、約634g(H25年度)となり、目標達成に向け、順調に推移しています。	＜奈良県の持っている強み＞ 【CO2排出削減・CO2吸収源整備】 1 再生可能エネルギー(太陽光パネル設置基数等)の普及拡大 2 CO2吸収源となる豊富な森林資源の保有 【廃棄物排出抑制、循環的利用の促進】 3 有機野菜等の消費者ニーズ(約8割の人が有機農業、エコファーマーによる農産物を買いたいと回答：H25.10奈良まほろば市アンケート調査) 【生物多様性なら戦略の推進】 4 生物多様性なら戦略を策定 5 「なら生物多様性保全ネットワーク」を設立	＜奈良県の抱えている弱み＞ 【河川の水質保持・水量確保】 6 大和川の支川別に見ると水質改善が進んでない河川が存在 7 污水处理が進みにくい山間部が多い 【CO2排出削減・CO2吸収源整備】 8 家庭部門におけるCO2排出割合が高い 9 森林整備の担い手不足 【廃棄物排出抑制、循環的利用の促進】 10 事業系一般廃棄物(オフィス・飲食店等から排出されるごみ)の排出量が多い 11 ごみのリサイクル率が低い
＜奈良県への追い風＞ 【CO2排出削減・CO2吸収源整備】 - a 再生エネルギー法成立に伴う新技術の確立及び新規企業参入の促進 - b 再生可能エネルギー固定買取制度の制定・定着 - c 原子力発電所事故及びそれに伴う電力不足問題の発生により、節電に対する意識及び自然エネルギーに対する関心の高まり - d 国の木材利用ポイント制度導入(間伐、木材利用促進により、森林の適正な整備と機能保全を図る) 【全般】 - e ごみ問題、水質汚濁に関心が高い(H26県民webアンケートより)	＜強みで追い風を活かす課題＞ 【CO2排出削減】 【重要課題】太陽光発電の一般家庭・民間施設への導入促進・普及、公共施設への導入・利用(1,a,b,c) 【重要課題】小水力発電の導入・利用(1,b,c) 【重要課題】県営水道の施設を利用した新エネルギー発電(小水力発電)の更なる導入(1,b,c) 【CO2吸収源整備】 ・低コスト集約化施業による搬出間伐の推進(2,d) ・公共建築物の木造化及び内装等木質化の推進(2,d) ・住宅での県産材利用(2,d) 【廃棄物排出抑制、循環的利用の促進】 ・有機野菜等の生産と消費の拡大(3,e)	＜弱みを踏まえ追い風を活かす課題＞ 【河川の水質保持・水量確保】 【重要課題】家庭での生活排水対策(6,7,e) 【重要課題】地域社会における河川美化活動(6,e) 【CO2排出削減】 ・レジ袋削減など家庭での地球温暖化防止への取組み(8,c) 【CO2吸収源整備】 ・多様な担い手による森林づくり(9,d) 【廃棄物排出抑制、循環的利用の促進】 【重要課題】一般廃棄物の減量化・再生利用の推進(10,11,e)
＜奈良県への向かい風＞ 【CO2排出削減】 - f 太陽光発電を中心とする再生可能エネルギーの固定買取制度の買取価格引き下げ 【生物多様性なら戦略の推進】 - g 「生物多様性」認知度が低い(約6割の人が知らない又は詳しくは知らないと回答：H26県民webアンケート)	＜強みで向かい風を克服する課題＞ 【生物多様性なら戦略の推進】 ・生物多様性保全活動の推進(4,5,g)	＜弱みを踏まえ向かい風に備える課題＞ 【CO2排出削減】 【重要課題】奈良の省エネ・節電スタイルの推進(8,f)

5. それぞれの課題についての今後の取組方針

強みで追い風を活かす課題	今後の取組方針
【CO2排出削減】 【重要課題】太陽光発電の一般家庭・民間施設への導入促進・普及、公共施設への導入・利用	固定価格買取(FIT)制度等を活用した民間太陽光発電事業等の促進、家庭用太陽光パネル及び蓄電池等の設置促進、公共的施設等への導入促進を行います。
【CO2排出削減】 【重要課題】小水力発電等の導入・利用	・農村資源を活用した再生可能エネルギーの調査及び導入に対し支援を行います。 ・小水力、太陽光発電の導入促進、普及啓発を実施します。
【CO2排出削減】 【重要課題】県営水道の施設を利用した新エネルギー発電(小水力発電)の更なる導入	浄水場、受水地、ポンプ場等を活用した発電施設の可能性を検討し、その電力が有効に利用できる箇所については、小水力発電施設の導入を進めます。
【CO2吸収源整備】 低コスト集約化施策による搬出間伐の推進	・奈良県の急峻な地形や地質にあった壊れにくい奈良型作業道の重点整備と林業機械の導入を支援します。 ・奈良型作業道整備などの実践研修を実施します。
【CO2吸収源整備】 公共建築物の木造化及び内装等木質化の推進	・県有建築物の木造化及び内装等木質化を推進します。 ・市町村及び民間施設への県産材利用拡大を推進します。
【CO2吸収源整備】 住宅での県産材利用	・工務店等と県産材取扱事業者とのマッチングを拡大します。 ・新築住宅等への県産材の利用を推進します。
【廃棄物排出抑制・循環的利用の促進】 有機野菜等の生産と消費の拡大	県と有機野菜等の生産を拡大するための協働協定を締結した農業法人等の取り組みを推進します。
弱みを踏まえ追い風を活かす課題	今後の取組方針
【河川の水質保持・水量確保】 【重要課題】家庭での生活排水対策の推進	・下水道の普及促進を図ります。 ・単独浄化槽から合併浄化槽への転換を促進します。 ・水質改善課題の見える化の更なる推進を図ります。
【河川の水質保持・水量確保】 【重要課題】地域社会における河川美化活動	・河川美化活動団体の増加を促進します。 ・地域団体等による河川美化活動内容の広報周知を促進します。
【CO2排出削減】 レジ袋削減など家庭での地球温暖化防止への取組み	地域の実情に応じた啓発活動を引き続き実施します。
【CO2吸収源整備】 多様な担い手による森林づくり	県独自の認証制度で森林整備効果によるCO2の吸収量を明示します。(認証制度をもとに企業のCSR活動等による森林づくりへの参加を推進します。)
【廃棄物排出抑制・循環的利用の促進】 【重要課題】一般廃棄物の減量化・再生利用の促進	奈良モデル・プロジェクトにおける廃棄物循環的利用を促進します。
強みで向かい風を克服する課題	今後の取組方針
【生物多様性なら戦略の推進】 生物多様性保全活動の推進	レッドデータブックの改訂や外来種リストの作成による普及啓発の強化を行います。
弱みを踏まえ向かい風に備える課題	今後の取組方針
【CO2排出削減】 【重要課題】奈良の省エネ、節電スタイルの推進	電気をより使わないライフスタイルへの変換を目指す「奈良の節電スタイル」を普及します。

6. 平成26年度評価において見直しを行った課題、取り組み

見直した課題	見直した取組方針、見直した内容
再生可能エネルギー等の導入の取組拡大	平成26年10月にエネルギービジョンにおける再生可能エネルギー設備容量の数値目標を見直し(H22比2.7倍→3.8倍)、今後は再生可能エネルギー等の導入の取り組みを進めていくこととしました。
「きれいに暮らす奈良県スタイル」構築・推進プロジェクト推進体制の整備・充実	「きれいに暮らす奈良県スタイル」構築・推進プロジェクトを推進する庁内推進本部を平成27年3月に新たに設置し、今後は部局横断的に取り組みを進め、環境保全の更なる向上等を図ることとしました。